

00618

供覽

社會課長

鳥取縣公報

告 示

第七百九十七號

昭和十二年二月二日

火曜 日

◆鳥取縣告示第五十五號

昭和十二年二月十五日ヨリ氣高郡賀露村ヲ廢シ其ノ區域ヲ鳥取市ニ編入ス
編入ノ際ニ於ケル賀露村ノ財產ハ鳥取市ニ歸屬セシム

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第五十六號

昭和十年八月鳥取縣告示第四百九十三號縣會議員選舉投票區及其ノ區劃中左ノ通變更ス

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

鳥取縣公報 每週日發行 (休日ニ當ル) 第七百九十七號
火金 時ハ翌日 昭和十二年二月二日

(昭和四年四月十五日) 第三種郵便物認可

町 村 名	投票區數
八頭郡智頭町	六
	第一投票區 智頭、南方、市瀬 第二投票區 三田、山根、穗見、木原、横田、壇師、三吉、慶所 第三投票區 大屋、早瀬、真鹿野、野原、大脊、奥本、東字塚、西字塚、河津原 第四投票區 篠坂、毛谷、大内、郷原、西野、大呂 第五投票區 芦津、八河谷 第六投票區 岩神、坂原、中田、惣地、新見、口波多、波多、口字波、字波

◆鳥取縣告示第五十七號

氣高郡大郷村大畑耕地整理組合規約變更ノ件認可セリ

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第五十八號

氣高郡大郷村福井第四耕地整理組合設計書變更ノ件認可セリ

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第五十九號

氣高郡大郷村福井辛川耕地整理組合設計書變更ノ件認可セリ

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第六十號

東伯郡上郷村山田耕地整理組合地區並設計書變更ノ件認可セリ

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

◆鳥取縣告示第六十一號

氣高郡美穂村消防組ノ組織ヲ變更シ組員數ヲ左ノ通定ム

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

00621

一 組員數

組頭	副組頭	部名	部長	小頭	消防手
一	一	第一部	一	一	三九
		第二部	一	一	五三
		第三部	一	一	五七
		第四部	一	一	三三
		第五部	一	一	二四

◆鳥取縣告示第六十二號

東伯郡由良町消防組ノ組織ヲ變更シ組員數ヲ左ノ通定ム

昭和十二年二月二日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

一 組員數

組頭	副組頭	小頭	消防手
一	一	二	四二

00622

彙報

地方財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト共ニ國民負擔ノ輕減ト均衡トヲ圖ラントスル方針ノ下ニ立案セラレタル地方税法案及之ニ伴フ府縣制中改正法律案、市制中改正法律案及町村制中改正法律案左ノ通内務省ヨリ公表セラレタリ右法案ハ其ノ内容廣汎ニシテ注意ヲ要スルモノ少カラズ必要ナル諸般ノ手續ヲ經タル上ハ昭和十二年度ヨリ施行セラレントスルモノナルヲ以テ豫メ十分ナル研究ヲ悉スニ遺算ナカラシムル爲茲ニ之ヲ登載ス

地方税法案

地方税法

第一章 總則

第一節 通則

第一條 本法ニ於テ地方團體ト稱スルハ府縣及市町村ヲ、地方税ト稱スルハ府縣税及市町村税ヲ謂フ

本法ニ於テ條例ト稱スルハ府縣條例及市町村條例ヲ謂フ

本法中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ府縣税、府縣知事、府縣

會、府縣參事會又ハ府縣條例トアルハ夫々北海道地方税、北海道廳長官、北海道會、北海道參事會又ハ北海道條例トス

本法中市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ニ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ市町村税、市町村長、市町村會又ハ市町村條例トアルハ夫々其ノ町村税、町村長、町村會又ハ町村條例若ハ町村規則トス

第二條 府縣稅トシテ賦課徵收スルコトヲ得ベキモノ左ノ如シ

一 國稅附加稅

二 獨立稅

三 特別稅

市町村稅トシテ賦課徵收スルコトヲ得ベキモノ左ノ如シ

一 國稅附加稅

二 府縣稅附加稅

三 獨立稅

四 特別稅

第三條 府縣ハ國稅ノ課稅客體ニ對シテハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外府縣稅ヲ課スルコトヲ得ズ市町村ハ國稅又ハ府縣稅ノ課稅客體ニ對シテハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外市町村稅ヲ課スルコトヲ得ズ

ト不得ズ

第四條 地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第二節 賦 課

第五條 地方團體内ニ住所ヲ有スル者ハ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

三月以上地方團體内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

地方團體内ニ住所ヲ有セズ又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖モ左ニ掲グル者ハ各號ノ定ムル所ニ依リ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

一 地方團體内ニ於テ土地、家屋又ハ物件ヲ所有シ、使用シ又ハ占有スル者ニ付テハ其ノ土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シ賦課スル地方稅

二 地方團體内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對シ賦課スル地方稅

方稅

三 地方團體内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ行爲ニ對シ賦課スル地方稅

第六條 左ニ掲グル者ハ各號ノ定ムル所ニ依リ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

一 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ付テハ合併 因リ消滅シタル法人ニ合併前ノ事實ニ付賦課セラルベキ地方ニシテ未ダ賦課セラレザルモノ

二 相續人又ハ相續財團ニ付テハ被相續人相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルベキ地方税ニシテ未ダ賦課セラレザルモノ

前項第二號ニ掲グル場合ニ於テ國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負フ

第一項第二號ニ掲グル場合ニ於テ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦其ノ義務ヲ負フ

第七條 納税者ノ地方團體外ニ於テ所有シ、使用シ若ハ占有スル土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シテハ地方税ヲ賦課スルコトヲ得ズ地方團體外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業又ハ其ノ收入ニ對シ亦同ジ

第八條 地方團體ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メザル者ニ關係地方團體ニ於テ營業收益税附加税又ハ所得税附加税ヲ賦課スルトキハ其ノ本税額ノ歩合ハ本税ノ決定シタル税務官署ノ定メタルモノニ依ル

税務官署ハ本税ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依ル本税額ノ歩合ヲ定メ之ヲ關係府縣知事及市町村長ニ通知スベシ

關係府縣知事ニ於テ第一項ノ規定ニ依リ税務官署ノ定メタル本税額ノ歩合ニ異議アルトキハ本税

額ノ歩合ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

關係府縣知事ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル税務官署ノ定メタル本税額ノ歩合ニ異議ナキトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ歩合ヲ定メラレタルトキハ其ノ歩合ニ依ル本税額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本税額ト看做ス

市町村長ニ於テ府縣内市町村間ノ本税額ノ歩合ニ異議アルトキハ本税額ノ歩合ハ府縣知事之ヲ定ム

第三項及前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ之ヲ申出ヅベシ

第九條 地方團體ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合又ハ鑛區ガ營業所所在ノ地方團體ノ内外ニ涉ル場合關係地方團體ニ於テ鑛産税附加税ヲ賦課スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十條 鑛區又ハ砂鑛區ガ地方團體ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區税又ハ砂鑛區税ノ附加税ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本税額ヲ分別シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

第十一條 住所滞在ガ地方團體ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生ズル收入ニ非ザルモノニ對シ地方税ヲ賦課セントスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ

00627

一部ニノミ賦課スベシ但シ住所又ハ滞在ガ其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スベシ

第十二條 年稅又ハ期稅タル地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地方稅ヲ賦課ス

前項ノ地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ地方稅ヲ賦課ス

第一項ノ地方稅ノ賦課後其ノ課稅客體ノ承繼アリタル場合ニ於テハ前納稅義務者ノ納稅ヲ以テ後ノ納稅義務者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セズ

月稅タル地方稅ノ賦課期日後其ノ月十五日迄ニ納稅義務發生シタルトキハ其ノ地方稅ノ全額、十六日以後納稅義務發生シタルトキ又ハ十五日迄ニ納稅義務消滅シタルトキハ其ノ半額ヲ賦課ス
前二項ノ場合ニ一ノ地方團體ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ地方團體ニ於テ納稅義務發生シタルトキハ納稅義務ノ發生シタル地方團體ハ納稅義務ノ消滅シタル地方團體ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

第十三條 國稅附加稅及府縣稅附加稅ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル但シ地租附加稅及地租割ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年ノ四月一日ニ始ル年度ノ賦課率ニ依ル

00628

法人ノ所得稅附加稅及營業收益稅附加稅ニ付テハ前項ノ規定ニ關ラズ事業年度終了ノ日ノ屬スル年度ノ附加稅賦加率ニ依ル

第十四條 左ニ掲グルモノニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

一 所得稅法第十八條ニ掲グル所得

二 神社、寺院、祠宇又ハ佛堂ノ境内地及教會所又ハ說教所ノ構内地但シ有料借地及有料貸地ヲ除ク

三 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ事業又ハ行爲

四 家屋稅法第三條ニ掲グル家屋

五 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル物件但シ有料ニテ使用シ又ハ使用收益セシムルモノヲ除ク

六 國有ノ土地、家屋又ハ物件但シ使用收益セシムルモノヲ除ク

七 地租法第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラレタル土地但シ其ノ年度分ニ限ル

八 免租年期地ニ對シ地方稅ヲ賦課スベキ場合ニ於テ市町村ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニシテ納稅義務者ヨリ地方稅免除ノ申請アリタルモノ但

00623

シ其ノ年度分ニ限ル

九 前各號ノ外法律勅令ヲ以テ定ムルモノ

第十五條 獨立税ノ課税客體、課税標準及賦課ノ制限ニ關シテハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課税ヲ不適當トスル場合又ハ不適當トスルモノアルトキハ課税ヲ爲サザルコトヲ得

地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ不均一ノ税率ヲ以テ課税ヲ爲スコトヲ得

市町村前二項ノ規定ニ依リ課税ヲ爲サズ又ハ不均一ノ税率ヲ以テ課税ヲ爲サントスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

第十七條 地方團體ハ地方團體ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ地方團體ノ一部ニ賦課ヲ爲スコトヲ得

市町村前項ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ市町村ノ一部ニ賦課ヲ爲サントスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

第十八條 府縣知事又ハ市町村長ハ條例ノ定ムル所ニ依リ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得

00630

00630

第十九條 府縣知事又ハ市町村長ハ特別ノ事情アル場合又ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣參事會又ハ市町村會ノ議決ヲ經テ地方税ヲ減免スルコトヲ得

第三節 徵 收

第一款 普通徵收

第二十條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣税ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ但シ第二十二條第二項又ハ第三十七條第一項ノ規定ニ依リ徵收スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

府縣ハ前項ノ規定ニ依ル徵收ノ費用ヲ補償スル爲メ徵收金額及徵稅傳令書數ニ應ジ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スベシ

前項ノ規定ニ依ル府縣條例ノ規定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第二十一條 市町村ハ避クベカラザル災害ニ因リ既收ノ府縣税ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

府縣知事前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリ訴願ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前四項ノ規定ノ適用ニ付テハ準用

00631

ス

第二十二條 府縣稅ヲ徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ市町村ニ對シ徵稅命令書ヲ發シ、市町村長ハ徵稅命令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スベシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ納稅人ニ對シ直接ニ徵稅令書ヲ交附スルコトヲ得

第二十三條 市町村稅ヲ徵收セントスルトキハ市町村長ハ徵稅令書ヲ納稅人ニ交付スベシ

第二十四條 第二十二條第一項ノ徵稅傳令書又ハ前條ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村(市町村金庫ヲ置キタルモノニ在リテハ市町村金庫)ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

第二十二條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

00532

第二十五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會又ハ市參事會若ハ町村會ノ決定ニ付スベシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣稅ニ付テハ行政裁判所ニ出訴シ市町村稅ニ付テハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ訴願ニ對スル裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ府縣稅ニ在リテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員、市町村稅ニ在リテハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ訴願又ハ出訴スルコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前五項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 府縣稅ノ徵令書若ハ徵稅傳令書又ハ市町村稅ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人期限内ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長ハ遅クモ納期限後十日目迄ニ督促狀ヲ發スベシ

00633

督促狀ニハ條例ヲ以テ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ
特別ノ事情アル地方團體ニ於テハ條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十七條 前條ノ督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス
手数料ノ額ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

府縣稅ニ關シ市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市町村ノ收入ト
ス
第二十八條 第二十六條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手数料ヲ
完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長ハ條例ヲ以テ定メ
タル期間内ニ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ

府縣ノ徵收金(府縣稅、府縣稅ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費)ハ國ノ徵收金ニ、市町村ノ
徵收金(市町村稅、市町村稅ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費)ハ府縣ノ徵收金ニ次デ先取特
權ノ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル但シ附加稅タル地方稅ニシテ本稅ノ決定ニ
依リ賦課シ得ルニ至ルモノノ時効ハ本稅決定ノ日ヨリ進行ス

前二項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

00634

前項ノ裁決ニ付テハ府縣稅ニ在リテハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員、市町村稅ニ
在リテハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ差押處分ノ確定ニ至ル迄之ヲ停止ス

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前五項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス
第二十九條 督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ萬分ノ四以內ニ於テ條例ノ定ムル割合
ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵
收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付府縣知事又ハ市町村長ニ於テ酌量スベキ
情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 徵稅令書又ハ徵稅傳令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三 納稅者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザル爲又ハ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令
又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ延滞金ハ之ヲ徵收セズ

第三十條 納稅人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル地方稅
ニ限リ納期前ト雖モ納稅義務ノ確定シタル稅金ノ全額ヲ徵收スルコトヲ得

00635

一 國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ

二 強制執行ヲ受クルトキ

三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四 競賣ノ開始アリタルトキ

五 法人解散シタルトキ

六 納税人遁脱ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

前項ノ規定ニ依ル徵收ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第三十一條 左ニ掲グル者ハ各號ノ定ムル所ニ依リ地方稅、督促手数料延滞金及滯納處分費ヲ納ムル義務ヲ負フ

一 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ付テハ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ納付スベカリシモノ

二 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ清算終了前ノ事實ニ付賦課セラレタル地方稅並ニ其ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタル清算人ニ付テハ其ノ法人ノ納付スベカリシモノ

三 相續人又ハ相續財團ニ付テハ被相續人ノ納付スベカリシモノ

前項第二號ニ掲グル清算人ハ殘餘財産ノ償還ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負ヒ同項第三號ニ掲グル場合ニ於テ國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財

00636

產ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負フ

第一項第三號ニ掲グル場合ニ於テ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦其ノ義務ヲ負フ

第三十二條 共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生ジタル物件又ハ共同行爲ニ對スル地方稅、並ニ其ノ督促手数料延滞金及滯納處分費ハ納税人連帶シテ其ノ義務ヲ負フ

前條第一項第二號ニ掲グル地方稅並ニ其ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費ハ分配當時ノ前清算人連帶シテ其ノ義務ヲ負フ

第三十三條 同一年度ノ地方稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第三十四條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理ヒシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ府縣稅ニ付テハ府縣知事ニ、市町村稅ニ付テハ市町村長ニ之ヲ申告スベシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三十五條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第三十六條 書類ノ送達ヲ受クベキ者ガ其ノ住所若ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザルトキ若ハ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル公告ハ地方團體ノ揭示場ニ之ヲ爲スベシ

第二款 特別徴收

第三十七條 地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方税ニ付テハ其ノ徴收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徴收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徴收義務者ハ地方團體ニ對シ其ノ徴收スベキ地方税ヲ納人スルノ義務ヲ負フ

第一項ノ地方税ノ徴收ニ付テハ第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三十八條 前條第一項ノ規定ニ依リ地方税ヲ徴收セシムル場合ニ於テハ納税人ハ其ノ税金ヲ徴收義務者ニ拂込ムニ依リテ納税ノ義務ヲ了ス

前條第一項ノ規定ニ依ル徴收義務者ハ其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ府縣税ニ在リテハ府縣金庫ニ、市町村税ニ在リテハ市町村金庫ヲ置キタルモノニ在リテハ市町村金庫ヲ置キタルモノニ在リテハ市町村金庫)ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金ノ徴收及納人ノ義務ヲ了ス

第三十九條 第三十七條第一項ノ規定ニ依ル徴收義務者ハ其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ府

縣知事又ハ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ府縣税ニ在リテハ府縣金庫ニ、市町村税ニ在リテハ市町村(市町村金庫ヲ置キタルモノニ在リテハ市町村金庫)ニ之ヲ納入スベシ

第四十條 第三十七條第一項ノ規定ニ依ル徴收義務者其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ指定期日迄ニ納入セザルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

第三十七條第一項ノ規定ニ依ル徴收義務者其ノ徴收スベキ地方税ヲ正當ノ事由ニ因リ徴收スルコト能ハザリシトキハ徴收義務者ノ申請ニ依リ之ニ相當スル既納ノ金額ハ之ヲ還付スベシ

前項ノ規定ニ依ル還付ノ方法ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第四十一條 第三十七條第一項ノ規定ニ依ル徴收義務者避クベカラザル災害ニ困リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金納入義務ノ免除ヲ府縣税ニ在リテハ府縣知事ニ市町村税ニ在リテハ市町村長ニ申請スルコトヲ得

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ府縣參事會又ハ市參事會若ハ町村會ノ決定ニ付スベシ

前項ノ規定ニ依ル府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル府縣參事會ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル市參事會又ハ町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第六項ノ訴願ニ對スル裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

00639

第二項ノ規定ニ依ル市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願スルコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依ル府縣參事會ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前六項ノ規定ノ適用ニ付テハ準用ス
 第四十二條 第六條、第二十條第二項及第三項、第二十四條第四項並ニ第二十八條乃至第三十二條ノ規定ハ第三十七條第一項ノ規定ニ依リ地方稅ヲ徵收セシムル場合ノ納入金ニ之ヲ準用ス
 第四十三條 地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方稅ニ付テハ第二十二條及第二十三條ノ規定ニ依ラズ其ノ地方團體ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ地方稅ヲ拂込マシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方團體ハ證憑書類、入場券ノ類其ノ他ノモノニ證紙ヲ貼用セシメ又ハ證紙金額ニ相當スル現金ノ納付ヲ受ケ納稅濟印ノ押捺ヲ爲シ證紙ノ貼用ニ代ヘシムルコトヲ得
 證紙ヲ貼用スルトキハ證紙ヲ貼用シタルモノノ紙面ト證紙ノ彩紋トニカケテ當該地方團體ノ印章又ハ第三十七條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ノ印章若ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スベシ

第四十四條 府縣及市町村ハ同一人ニ對シ同一課稅客體ニ付府縣稅及市町村稅ヲ同時ニ賦課スル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ一ノ證紙ヲ以テ府縣稅及市町村稅ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得
 第四十五條 本法ニ依リ地方稅、督促手數料、延滞金若ハ滞納處分費ヲ徵收セラルベキ者又ハ其ノ

00640

者ノ財産ガ當該地方團體外ニ在ルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ市町村長ハ本人又ハ財産所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於ケル徵收金ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ例ニ依リ
 第一項ノ規定ニ依リ徵收處分ノ囑託ヲ爲シタル場合ニ於テハ囑託事務及送金ニ要スル費用ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ負擔トシ前項ノ規定ノ適用アリタル場合ノ督促手數料及滞納處分費ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ收入トス

第二章 普通稅

第一節 府縣稅

第一款 附加稅

第四十六條 國稅附加稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ府縣稅及其ノ制限率左ノ如シ

所得稅附加稅 所得稅百分ノ十

地租附加稅 地租百分ノ七十

營業收益稅附加稅 營業收益稅百分ノ七十

家屋稅附加稅 家屋稅百分ノ七十

00641

取引所營業稅附加稅

取引所營業稅百分ノ十

鑛業稅附加稅

砂鑛區稅附加稅

鑛產稅	金鑛百分ノ十
試掘鑛區稅	其ノ他百分ノ二十
探掘鑛區稅	百分ノ三
砂鑛區稅	百分ノ七
	百分ノ十

第四十七條 府縣稅所得稅附加稅ノ賦課ニ付テハ所得稅法第二十一條第二項若ハ第四項又ハ大正九年法律第十二號第三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ第一種ノ所得稅額ト看做ス

所得稅法第二十三條ノ二ノ規定ニ依ル附加所得稅及第二種ノ所得稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

府縣稅地租附加稅ノ賦課ニ付テハ地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

府縣稅營業收益稅附加稅ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

第四十八條 左ニ掲グル場合ニ於テハ府縣稅地租附加稅、府縣稅營業收益稅附加稅及府縣稅家屋稅附加稅ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ制限率ヲ超過シテ之ヲ課スルコトヲ得

00642

一 府縣債(一時ノ借入金、借入ノ翌年度ニ於テ償還スルモノ、轉貸ノ爲借入レタルモノ及水道、電氣、瓦斯、鐵道、軌道、及自動車等ノ事業ノ爲借入レタルモノヲ除ク)ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害善後ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

四 市町村立小學校教員ノ俸給費及恩給費增加ノ爲費用ヲ要シ已ムヲ得ザル事情アルトキ前項ノ規定ニ依リ制限率ヲ超過シテ課稅スルハ他ノ國稅附加稅ノ賦課ガ第四十六條ニ規定スル制限率ニ達シタルトキニ限ル

第四十九條 府縣稅地租附加稅、府縣稅營業收益稅附加稅及府縣稅家屋稅附加稅ノ賦課率ハ之ヲ同ト爲スベシ但シ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二款 獨立稅

第五十條 獨立稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ府縣稅左ノ如シ

營業稅

段別稅

船 稅

車 稅

電柱稅

犬 稅

狩獵稅

不動產取得稅

漁業權稅

藝妓稅

觀覽稅

遊興稅

府縣ハ前項ニ掲グルモノヲ除クノ外内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ別ニ稅目ヲ起シテ獨立稅ヲ賦課スルコトヲ得

第五十一條 一營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受ケザル營業者及營業收益稅ヲ賦課セザル營業ヲ爲ス者ニ其ノ營業ニ對シ營業ノ純益ヲ標準トシテ之ヲ賦課シ營業ノ收入金額(賣上金額、請負金額、報價金額ノ類ヲ含ム)

課ス 資本金額、營業用建物ノ賃貸價格若ハ從業者ノ數ヲ標準トシテ之ヲ賦課シ又ハ定額ヲ以テ之ヲ賦課ス

第五十二條 營業稅ハ第五條第三項第二號及第七條ノ規定ニ拘ラズ主タル營業所所在地ノ府縣ニ於テ之ヲ賦課スベシ

主タル營業所ノ所在地ニ付關係府縣知事ニ於テ異議アルトキハ内務大臣之ヲ定ム

第五十三條 營業收益稅法第二條ニ掲グル營業ニ對スル營業稅ノ賦課額ハ同法ニ依ル個人ノ營業收益稅額ノ最低額未滿トス

營業收益稅ヲ賦課セザル營業ニ對スル營業稅ノ賦課率又ハ賦課額ハ營業收益稅法ニ依ル個人ノ營業收益稅ノ稅率又ハ稅額ニ比準シテ之ヲ定ムベシ

第五十四條 左ニ掲グル營業ニ對シテハ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣

三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣

四 新聞紙法ニ依ル出版

五 自己ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但

00645

シ特ニ營業所ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第五十五條 段別税ハ免租年期地ニ對シ評定賃貸價格ヲ標準トシテ其ノ所有者質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定メアル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ニ之ヲ賦課ス但シ免租年期地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨル二年間ハ之ヲ賦課スルコトヲ得ズ

前項ノ評定賃貸價格ハ類地ノ賃貸價格ニ比率ニ當該免租年期地ノ其ノ品位及情況ニ應ジ府縣條例ノ規定スル所ニ依リ之ヲ定ムベシ

第五十六條 段別税ノ賦課率ハ其ノ府縣ニ於ケル地租附加税ノ賦課率ノ賃貸價格ニ對スル比率ト同一トスベシ

第五十七條 船税ハ船ニ對シ主タル碇繫場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

主タル碇繫場不明ナルトキハ碇繫場所在ノ府縣中船籍港ノ存スル府縣ニ主タル碇繫場アルモノト看做ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付關係府縣知事ニ於テ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五十八條 車税ハ車ニ對シ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第五十九條 電柱税ハ電柱ニ對シ所在地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第六十條 犬税ハ犬ニ對シ飼育地府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

00646

第六十一條 狩獵税ハ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シ其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第六十二條 不動産取得税ハ不動産ノ取得ニ對シ其ノ不動産所在ノ府縣ニ於テ其ノ取得者ニ之ヲ賦課ス

第六十三條 左ニ掲グル不動産ノ取得ニ對シテハ不動産取得税ヲ賦課スルコトヲ得ズ

一 家督相續又ハ遺産相續ニ因ル不動産ノ取得

二 法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得

三 保險業法ニ依リ會社ガ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ依リテ不動産ヲ移轉スル場合ニ於ケル不動産ノ取得

四 信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得

五 自作農創設維持ノ施設ニ係ル不動産ノ取得

第六十四條 信託財産タル不動産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得ニ對シテハ委託者以外ノ者ガ信託利益ヲ受クベキ信託ニ因リ取得スル場合ノ外不動産取得税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ其ノ後信託條項ヲ變更シタル爲當該不動産ガ委託者以外ノ者ニ於テ信託利益ノ全部ヲ受クベキ信託ト爲リタル場合ニ於テハ其ノ時ニ不動産ノ取得アリタルモノト看做シ不動産取得税ヲ賦課スルコトヲ得

00647

第六十五條 左ニ掲グル信託ニ因リ受益者ノ不動産取得ニ對シテハ不動産取得稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

- 一 委託者以外ノ者ガ信託利益ノ全部ヲ受クベキ信託
- 二 委託者ガ信託利益ノ全部ヲ受クベキ信託
- 三 委託者ガ元本ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トガ收益ノ受益者ナル信託

第六十六條 漁業權稅ハ漁業權又ハ漁業權ノ取得ニ對シ其ノ漁場所在ノ府縣ニ於テ其ノ漁業權者又ハ漁業權取得者ニ之ヲ賦課ス

第六十七條 藝妓稅ハ藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シ其ノ住所地府縣ニ於テ之ヲ賦課ス

第六十八條 觀覽稅ハ演劇其ノ他ノ興行及地方競馬ノ觀覽(聽聞ヲ含ム)ニ對シ其ノ行爲地府縣ニ於テ其ノ觀覽者ニ之ヲ賦課ス

第六十九條 遊興稅ハ遊興ニ對シ其ノ行爲府縣ニ於テ其ノ遊興者ニ之ヲ賦課ス

第二節 市町村稅

第一款 附加稅

第七十條 國稅附加稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ市町村稅及其ノ制限率左ノ如シ

00648

地租附加稅 地租百分ノ六十

營業收益稅附加稅 營業收益稅百分ノ六十

家屋稅附加稅 家屋稅百分ノ六十

取引所營業稅附加稅 取引所營業稅百分ノ十

鑛業稅附加稅 鑛產稅金 鑛 百分ノ六十
其ノ他 百分ノ百二十
試掘鑛區稅百分ノ三
採掘鑛區稅百分ノ七

砂鑛區稅附加稅 砂鑛區稅百分ノ十

第四十七條 第三項ノ規定ハ前項ノ地租附加稅ノ賦課ニ付、同條第四項ノ規定ハ前項ノ營業收益稅附加稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第七十一條 府縣稅附加稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ市町村稅及其ノ制限率左ノ如シ

營業稅附加稅 營業稅百分ノ八十

段別稅附加稅 評定賃賃價格百分ノ三、八ノ百分ノ六十

船稅附加稅 船稅百分ノ八十

車稅附加稅 車稅百分ノ八十

00649

電柱稅附加稅 電柱稅百分ノ八十
 犬稅附加稅 犬稅百分ノ八十
 狩獵稅附加稅 狩獵稅百分ノ八十
 不動產取得稅附加稅 不動產稅取得稅百分ノ八十
 漁業權稅附加稅 漁業權稅百分ノ八十
 藝妓稅附加稅 藝妓稅百分ノ八十
 觀覽稅附加稅 觀覽稅百分ノ八十
 遊興稅附加稅 遊興稅百分ノ八十
 其ノ他府縣稅獨立稅附加稅 府縣稅獨立稅百分ノ八十
 第五十六條ノ規定ハ前項ノ段別稅附加稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス
 營業稅附加稅ハ第五條第三項第二號及第七條ノ規定ニ拘ラズ主タル營業所所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ賦課スベシ
 特別稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ
 第七十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ市町村稅地租附加稅、市町村稅營業收益稅附加稅及市町村稅家屋稅附加稅ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ制限率ヲ超過シテ之ヲ課スルコトヲ得

00650

一 市町村債(一時ノ借入金、轉貸ノ爲借入レタルモノ及上水道、電氣、瓦斯、鐵道、軌道、自動車、中央卸賣市場法ニ依ル市場等ノ事業ノ爲借入タルモノヲ除ク)ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
 二 災害善後ノ爲費用ヲ要スルトキ
 三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ
 四 市町村立小學校及青年學校ノ維持管理ノ爲又ハ其ノ校舍ノ新築、増築若ハ改築ノ爲費用ヲ要シ已ムヲ得ザル事情アルトキ
 前項ノ規定ニ依リ制限率ヲ超過シテ課稅スルハ他ノ國稅附加稅ノ賦課ガ第七十條ニ規定スル制限率ニ達シタルトキニ限ル
 第七十三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ府縣稅附加稅ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其ノ制限率ヲ超過シテ之ヲ課スルコトヲ得
 第七十四條 市町村稅地租附加稅、市町村稅營業收益稅附加稅及市町村稅家屋稅附加稅ノ賦課率ハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第七十五條 府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ賦課率ハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

00651

第七十六條 營業收益稅法第二條ニ掲グル營業ニ對スル營業稅附加稅ノ賦課額ハ前條ノ規定ニ拘ラズ同法ニ依ル個人ノ營業收益稅額ノ最低額ヲ納ムベキ者ノ納ムル當該府縣及市町村ノ營業收益稅附加稅ノ合算額未滿トス

第二款 獨立稅

第七十七條 市町村ハ獨立稅ヲ賦課セントスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第七十八條 所得、資産又ハ資力ヲ標準トシテ賦課スル市町村稅獨立稅、所得稅納稅者ニ非ザル者ニ之ヲ賦課ス

前項ノ獨立稅ノ賦課額ハ所得稅法ニ依ル個人ノ所得稅納稅額ノ最低額未滿トス

第一項ノ獨立稅ニ付テハ第七條及第十一條(但書ヲ除ク)ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第七十九條 府縣ガ段別稅ヲ賦課セザル場合ニ於テ市町村ノ賦課スル段別ニ關シテハ第五十五條及第五十六條ノ規定ヲ準用ス

第三章 特別稅

第八十條 府縣ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得

地租割 地租百分ノ十三以內

營業收益稅割 營業收益稅百分ノ十三以內

00652

家屋稅割

家屋稅百分ノ十三以內

府縣稅獨立稅割

府縣稅獨立稅百分ノ十三以內

其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

第四十七條第三項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ稅課ニ付、同條第四項ノ規定ハ前項營業收益稅割ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第八十一條 市町村ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得

地租割 地租百分ノ三十以內

營業收益稅割 營業收益稅百分ノ三十以內

家屋稅割 家屋稅百分ノ三十以內

府縣稅獨立稅割 府縣稅獨立稅百分ノ三十以內

其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

第四十七條第三項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ賦課ニ付、同條第四項ノ規定ハ前項ノ營業收益稅割ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第八十二條 府縣ハ水利ニ關スル事業ノ爲必要ナル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル關係土地ニ對シ左ノ特別稅ヲ稅課スルコトヲ得

00653

地租割
段別割

第四十七條第三項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ賦課ニ付之ヲ準用ス
第一項ノ特別税ノ賦課額(數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額)ハ當該土地ノ受益ノ限度ヲ超
ユルコトヲ得ス

第一項ノ特別税ノ賦課額ガ毎年度一段歩ニ付一圓ヲ超ユルモノアルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ
許可ヲ受クベシ

第八十三條 市町村ハ水利事業其ノ他土地ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲必要ナル費用ニ充ツル爲該事
業ニ因リ著シク利益ヲ受クル土地ニ對シ左ノ特別税ヲ賦課スルコトヲ得

地租割
段別割

第四十七條第三項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第二項ノ特別税ノ賦課額ガ毎年度二段歩ニ付一圓ヲ超ユルモノアルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ
前條第三項ノ規定ハ第一項ノ特別税ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第四章 補 則

第八十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地方税ヲ逋脱シタル者ニ付テハ條例ヲ以テ其ノ逋脱シタ

00654

ル金額ノ五倍ニ相當スル金額(其ノ金額十圓未満ナルトキハ十圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設
クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外地方税ノ賦課徴收ニ關シテハ條例ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ科スル
規定ヲ設クルコトヲ得

過料ヲ科シ及之ヲ徴收スルハ府縣税ニ關シテハ府縣知事、市町村税ニ關シテハ市町村長之ヲ掌
ル

府縣税ノ賦課徴收ニ關シ過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

市町村税ノ税課徴收ニ關シ過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願
シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村長ヨリモ行政裁判ニ出訴スルコトヲ得
第二十六條乃至第二十八條並ニ府縣制第三十八條、第百二十八條及第百二十八條ノ二ノ規定ハ前

六條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 地方税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業
者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

00655

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

第八十六條 市町村組合又ハ町村組合ニシテ地方税ヲ賦課徴收スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一市町村、其ノ組合會ハ之ヲ市町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ市町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ市町村吏員、其ノ組合條例ハ之ヲ市町村條例ト看做ス

第八十七條 地方税及其ノ賦課徴收ニ關シテハ本法又ハ他ノ法律ニ規定アルモノヲ除クノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 本法ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ハ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ輕易ナルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得

第八十九條 本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スベキ事項ニ付テハ主務大臣又ハ府縣知事ハ許可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第九十條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テ地方税ノ賦課徴收ニ關シ本法ニ依リ難キ事項ハ勅令ノ定ム

00656

ル所ニ依ル

附 則

第九十一條 本法ハ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋税附加税及家屋税制ニ關スル規定ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

國稅附加税及府縣稅附加税ニ關シテハ昭和十二年度分ニ限リ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第九十二條 明治四十一年法律第三十七號及大正十五年法律第二十四號ハ昭和十一年度分限リ之ヲ廢止ス但シ家屋税及同附加税ニ關シテハ昭和十二年度分ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

漁業（法人ノ漁業ヲ除ク）ニ對スル雜種税及同附加税ニ關シテハ昭和十四年度分迄ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十三條 昭和十二年所得稅法中改正法律附則第六條ノ規定ニ依リ附加所得稅ヲ課セザルモノニハ府縣稅所得稅附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ

府縣稅所得稅附加稅ノ賦課ニ付テハ昭和十二年ノ所得稅法中改正法律附則第四條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲サルモノヲ以テ第一種ノ所稅稅額ト看做ス

第九十四條 家屋稅法第七十三條ノ規定ニ依ル家屋稅ヲ課セザル家屋ニハ當分ノウチ地方稅ヲ賦課ス

00657

ルコトヲ條ズ但シ優良借家及優良貸家ニ對シテハ之ノ限ニ在ラズ
第九十五條 都市計畫法第八條ヲ削除ス

前項ノ規定ハ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅ニ關シテハ昭和十二年度分ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十六條 罹災救助基金法第四條ヲ削除シ同法中「明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限」ヲ「地方稅法第四十六條ノ制限率」ニ改ム

前項ノ規定ハ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

同法中「及所得稅」ヲ「所得稅及家屋稅」ニ改ム

前項ノ規定ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

第九十七條 北海道地方費法第二條及第三條ヲ削除シ同法第八條ノ三中「第百三條第二項」ヲ「第百三條」ニ改メ「第百十五條第二項乃至第五項、第百十六條第二項乃至第九項、第百十七條」ヲ削ル

前項ノ規定ハ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

第九十八條 水利組合法第四十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

第四十八條ノ二 水利組合費トシテ賦課スルコトヲ得ベキモノノ制限率左ノ如シ

00658

土地割 地租百分ノ六十

段別割 一段歩ニ付一圓

家屋割 家屋稅百分ノ六十

土地割ノ賦課ニ付テハ地租法第七十條ノ規定ニ依ル

地租ノ免除ハ之ヲ爲ササルモノト看做ス

第一項ノ制限ヲ超過シテ組合費ノ賦課ヲ爲ス場合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ勅令ノ定ムル限度ヲ超ユル時ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

工作物割ハ家屋割ニ比準シテ組合規約ヲ以テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ
第九十九條 北海道土功組合法第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

第五條ノ二 組合ハ左ノ制限内ニ土地割、段別割又ハ家屋割ヲ課スルノ外土地又ハ家屋ニ對シテ組合費ヲ課スルコトヲ得ズ

土地割 地租百分ノ六十

段別割 一段歩ニ付一圓

00653

家屋割 百分ノ六十

土地割ノ賦課ニ付テハ地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ之ヲ爲サザルモノト見做ス
第一項ノ制限ヲ超過シテ組合費ノ賦課ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道廳長官(勅令ノ定ムルモノニ付
テハ北海道支廳長)ノ許可ヲ受クベシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ勅令ノ定ムル限度ヲ超ユル時ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許
可ヲ受ケシムルコトヲ得

第百條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣制中改正法律案

市制中改正法律案

町村制中改正法律案

府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス

第百三條 府縣ハ地方税法ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百四條乃至第百十一條及第百十三條 削除

00660

第百十四條 第一項中「使用料」ノ下ニ「又ハ手數料」ヲ加ヘ「又ハ府縣稅ヲ逋脱シ」及「又ハ逋

脱シ」ヲ削リ「三倍」ヲ「五倍」ニ「五圓」ヲ「十圓」ニ改ム

同條第二項中「使用料、手數料及府縣稅ノ賦課」ヲ「使用料及手數料」ニ、「五圓」ヲ「二十
圓」ニ改ム

第百十五條 使用料又ハ手數料ノ納付者其ノ納付ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納付命令ヲ
受ケタル日(納付命令ヲ受ケザル場合ニ在リテハ納付ノ日)ヨリ一月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申
立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スベシ其ノ決
定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
夫役現品ノ賦課ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ヨリモ出訴スルコトヲ得

第百十六條第一項ヲ削リ同條第二項中「府縣稅、」ヲ削リ同條第四項中「第二項」ヲ「第一項」ニ

第五項中「第二項及第三項」ヲ「第一項及第二項」ニ、第七項及第九項中「第四項」ヲ「第三項」
ニ改ム

第百四十條 削除

附 則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十二年三月三十一日以前ノ使用料、手数料及夫役現品ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十二年度ニ限リ左ニ掲グル事件ニ付テハ「第六十八條及第一百十九條ノ規定ニ拘ラズ」府縣參事會ノ議決ヲ以テ府縣會ノ議決ニ代フルコトヲ得

一 昭和十二年度歳入歳出豫算ノ追加及更正但シ年度開始後二月分以内ノモノニ限ル
二 府縣稅ノ徵收期ノ繰下ゲ但シ昭和十二年七月二十一日迄ニ到來スル徵收期ニ限ル

從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル縣ノ財產ニシテ本法施行ノ際特ニ處分ヲ必要トスルモノノ處分ニ關シテハ縣會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

市部會及郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テ本法施行ノ際現ニ名譽職參事會員及其ノ補充員タル者ハ最近ノ改選期ニ於テ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス

前項ノ場合ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員ノ補闕順位ハ府縣知事抽籤シテ之ヲ定ム

第一項但書第二項ノ規定ハ北海道地方費ニ關シ及北海道地方稅之ヲ準用ス

市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス

00651

00652

第四十二條第五號及第八十七條第二項第五號中「又ハ夫役現品」ヲ、「夫役現品又ハ受益者負擔金」ニ

改ム

第一百十六條第二項ヲ削ル

第一百十七條 市ハ市住氏ニ對シ市稅、夫役現品及受益者負擔金ヲ賦課徵收スルコトヲ得市住氏ニ非

ズト雖モ三月以上市内ニ滞在シ、市内ニ於テ土地、家屋若ハ物件ヲ所有シ、使用シ若ハ占有シ、

市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シ亦同ジ

市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ地方稅法ノ定ムル所ニ依ル

第一百十八條乃至第一百二十一條ノ二 削除

第一百二十二條 財產又ハ營造物ノ設置維持ニ必要ナル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ財產又ハ營造物ノ設置維持ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ヲ限度ニ於テ其ノ一部ヲ受益者負擔金トシテ負擔セシムルコトヲ得費用ノ全部又ハ一部ヲ市ニ於テ負擔スル施設ニ付亦同ジ

第一百二十三條 第一百二十四條、第一百二十七條及第一百二十八條 削除

第一百二十九條 第一項中「手数料」及「特別稅」ヲ、「手数料及受益者負擔金」ニ改ム

同條第二項中「使用料」ノ下ニ、「手数料又ハ受益者負擔金」ヲ加ヘ「又ハ市稅ヲ逋脱シ」及「又ハ逋脱シ」ヲ削リ「三倍」ヲ「五倍」ニ、「五圓」ヲ「十圓」ニ改ム

00663

同條第三項中「市税」ヲ「受益者負擔金」ニ、「五圓」ヲ「二十圓」ニ改ム
 第三十條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項中「使用料手数料及加入金ノ徵收並夫役現品」ヲ「加入金ノ徵收並ニ夫役現品及受益者負擔金」ニ改ム

使用料又ハ手數料ノ納付者ハ其ノ納付ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納付命令ヲ受ケタル日(納付命令ヲ受ケザル場合ニ在リテハ納付ノ日)ヨリ一月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條第一項中「市税」ヲ「受益者負擔金」ニ改ム

第六十七條但書中「第六號及第十一號」ヲ「第五號及第八號」ニ改メ同條第五號ヲ左ノ如ク改メ同條第六號乃至第八號ヲ削リ同條第九號ヲ第六號トシ以下順次繰上グ

五 受益者負擔金ヲ新設シ又ハ變更スルコト

附 則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十二年三月三十一日以前ノ使用料、手数料及夫役現品ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

町村制中改正法律案

町村制中左ノ通改正ス

00664

第四十條第五號及第七十二條第二項第五號中「又ハ夫役現品」ヲ「夫役現品又ハ受益者負擔金」ニ改ム

第九十六條第二項ヲ削ル

第九十七條 町村ハ町村住民ニ對シ町村税、夫役現品及受益者負擔金ヲ賦課徵收スルコトヲ得町村住民ニ非ズト雖モ三月以上町村内ニ滞在シ、町村内ニ於テ土地、家屋若ハ物件ヲ所有シ、使用シ若ハ占有シ、町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シ亦同ジ

町村税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ地方税法ノ定ムル所ニ依ル

第九十八條乃至第一百一條ノ二 削除

第一百二條 財産又ハ營造物ノ設置維持ニ必要ナル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ財産又ハ營造物ノ設置維持ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ其ノ一部ヲ受益者負擔金トシテ負擔セシムルコトヲ得費用ノ全部又ハ一部ヲ町村ニ於テ負擔スル施設ニ付亦同ジ

第一百三條 第一百四條、第一百七條及第一百八條 削除

第九十九條第一項中「手数料及特別税」ヲ「手数料及受益者負擔金」ニ改ム

同條第二項中「使用料」ノ下ニ「手数料又ハ受益者負擔金」ヲ加ヘ「又ハ町村税ヲ遺脱シ」及

00665

「又ハ通脱シ」ヲ削リ「三倍」ヲ「五倍」ニ、「五圓」ヲ「十圓」ニ改ム

同條第三項中「町村税」ヲ「受益者負擔金」ニ、「五圓」ヲ「二十圓」ニ改ム

第一百條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項中「使用料及加入金ノ徴收並夫役現品」ヲ「加入金ノ徴收並ニ夫役現品及受益者負擔金」ニ改ム

使用料又ハ手數料ノ納付者其ノ納付ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納付命令ヲ受ケタル日(納付命令ヲ受ケザル場合ニ在リテハ納付ノ日)ヨリ一月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百十一條第一項中「町村税」ヲ「受益者負擔金」ニ改ム

第百四十七條但書中「第六號及第十一號」ヲ「第五號及第八號」ニ改メ同條第五號ヲ左ノ如ク改メ

同條第六號乃至第八號ヲ削リ同條第九號ヲ第六號トシ以下順次繰上グ

五 受益者負擔金ヲ新設シ又ハ變更スルコト

附 則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十二年三月三十一日以前ノ使用料、手數料及夫役現品ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十二年一月一日印刷
昭和十二年一月二日發行

發行者 鳥取縣鳥取市東町 縣
印刷所 鳥取縣氣高郡大正村大字古海 支所